

特集：宮田俊雄先生への感謝をこめて

*Special feature: Happy Retirement of Professor Toshio MIYATA*

実践報告 (Report)

## 可視化されたピアニスト宮田俊雄氏の音楽的抽象の世界 Visualization of the musical abstract world of pianist Toshio MIYATA

磯部 錦司<sup>1</sup>

ISOBE Kinji<sup>1</sup>

### 1. 宮田氏がつくる音の世界——コンテキストによるイメージの多層化

個人的な解釈であるが、氏の音楽が筆者を魅了する大きな理由は、コンテキストが生み出すイメージの多層化である。

演奏に対して音楽に素人な筆者の述べる感想にも、氏は真摯に耳を傾けてくれた。最寄り駅にある小料理店でよくお酒を交わしながら様々な話をさせていただいた。美術分野が専門の筆者とは分野が異なるが、演奏をつくり出すまでの苦悩や心の状況は共感できることが多くあった。それ故、完成したときの音色は興味深かった。また、幼少期から高校、大学、留学時代を経て、これまで表現者として生きてきた生き様も、日常のたわいもない生活の話も、授業や学生の話も、空き家となった実家の草刈りや畑仕事の話も、全ての話が、聴く側のコンテキストを深める要因となっていた。

氏の音色は、弱く強く脈略と世界観を広げながら、一瞬にあるフォルテシモへと誘う強さがある。そしてその過程は時にとても繊細である。さらにその後訪れる静寂な世界に聴き手は吸い込まれイメージを深める。その演奏を聴き澄まして音色を追っていくと、様々な風景がイメージとなって時間軸の中で繰り広げられていく。その過程では、純粋に音楽的要素が創り出すイメージとは別に、彼の言葉や彼の生きてきた風景のイメージがそこに重なり、音の一つ一つに個人的な解釈を生み出していく。そこでは、オーディエンスが表現者になるかのようにその曲の中へと誘われていく感覚に出会える。それは他ではなかなか出会えない感覚でもある。

### 2. 「宮田俊雄氏がつくる音の世界」の可視化

#### 2.1 「雨の木」(5R Gallery & Hall, 2012年3月17日)

音楽はそもそも抽象であると言われている。その世界観を、氏の奏でる音楽をとおり探してみた。

下記の実践は、「雨の樹 “Dialogue of Life” —絵画と映像

と音楽のコラボレーション—」をタイトルに、2012年3月に、宮田俊雄（ピアノ）、渡邊康（映像、作曲）、磯部 錦司（絵画）で試みた展覧会と演奏会である。ここでは、武満徹作曲「雨の木」を題材に、宮田氏が演奏し、その音楽を磯部が絵画で表現し、渡邊氏が絵画の世界を映像と音楽にするという試みであった。

音と造形の相互作用においてこの作品と演奏はつくられた。絵画作品は、磯部が主題とする「Dialogue of Life」から、宮田氏が武満徹作曲の「雨の木」を題材として選び出し、氏の演奏によるその音楽の世界を色と形に表したものである（写真1～3「Rain Tree」）。展覧会期間の最終日に展覧会場にあるコンサートホールにおいて演奏会を催していただいた。

氏の演奏は、雨が地面に染み込み、それを吸い上げ、大きな大木となるエネルギーの力強さや、緑を宿した大木に雨の降り注ぐ繊細な音色が、流れる時間の中で表現され、その風景に交わるような、また溶け込むような関係の状況を音によって創り出していた。その演奏は、観衆の感動を呼び起こした。

#### 2.2 宮田氏の音楽を学生が絵にする

学生にも氏の音楽を聴いてほしいと願い、筆者の「音を絵にする」という授業において隣接する音楽ホールで氏の生演奏を聴き（写真4）、その直後にそのイメージをビジュアルで学生が表すということを試みた。氏はその依頼を快く引き受けてくださった。忙しい中でも、コンサートの前でも、同じ曲を異なる日時において異なるクラスで演奏していただいた。当たり前のことかもしれないが、同じ曲でも日や時間が異なると曲のイメージは異なってくる。そのつくり出すイメージの違いに氏の繊細さが感じられた。学生たちは、その音楽的なイメージをもとに色と形で表した。曲は、イメージが具体的になりやすい曲を宮田氏に選んでいただいた。作品は、学生の個々の感性をとおり、その人らしい色と形によって表現されていった（写真5～10）。学生作品F（写真10）

<sup>1</sup> 椋山女学園大学教育学部

2024年1月25日受付

を描いた学生は、「宮田先生の生演奏を隣の音楽室で聴き、その曲のイメージを図工室で絵にしました。淡く優しい音色と、激しく冷たい音色が交じり合う感じを表しました。曲を聴いていると、祈るように手を握る一人の姿が浮かびました。」と記している。

### 3. 詩的瞬間を生きる表現者——感謝の言葉にかえて

音楽は時間と共に消えてしまう。それは時として刹那的でもあるが、この実践では、宮田氏の音を共有し、その営みを

痕跡として色と形に可視化できたことは意味深い。それは、詩的瞬間を共有することによって生まれた宮田氏と筆者と学生たちの「意味の生成」であり、「生の痕跡」でもある。

アートとは、作品だけでなく、人間が意味を生成するプロセスそのものの中にあることを講義で学生たちによく伝えている。宮田氏の演奏（作品）は、その音楽だけでなく、氏の生きる営みそのものの中に生まれている。本大学、本学部において、時間を共有し、共在させていただいたこの17年間の「氏の存在そのもの」に感謝したい。

Dialogue of Life

生の対話

音と映像と絵画によるエキシビション  
2012 / 3.15 - 3.27

Watanabe Koh  
渡邊 康 (作曲・映像)

Isobe Kinji  
磯部 錦司 (絵画)

Miyata Toshio  
宮田 俊雄 (ピアノ)

at: 5R Hall & Gallery

場所 5R Hall & Gallery  
日時 2012年3月15日 - 3月27日 (水曜休)  
11:00 - 19:00

ギャラリー 3月15日 (木) - 3月27日 (火)  
5R Gallery (入場無料)  
磯部 錦司 (絵画) × 渡邊 康 (サウンド・映像)

コンサート 3月17日 (土) 16:00 (開演)  
5R Hall (入場料 ¥2,000)  
宮田 俊雄 (ピアノ) × 渡邊 康 (サウンド・映像)

写真1. 「リーフレット」 (5R Gallery & Hall, 2012)





写真2. 「Rain Tree」 (Washi, Acryl, 5R Gallery, 2012)



写真3. 「Rain Tree」 (Washi, Acryl, 5R Gallery, 2012)



写真4. 「授業風景」





写真5.「学生作品A」



写真6.「学生作品B」



写真7.「学生作品C」



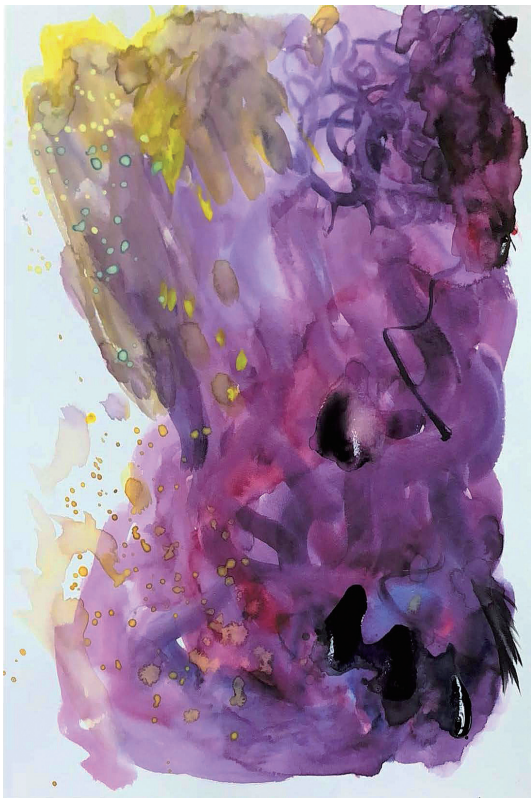


写真8, 「学生作品D」



写真9, 「学生作品E」



写真9, 「学生作品F」